

みんなが活き活きと

笑顔で暮らせる地域に



三間町にある多機能型事業所「ゆいの里」では、障がいのある人に社会参加してもらうことを目的に、よもぎの栽培や加工食品の生産などを行っています。名前には、「結（ゆい）」という言葉の持つ意味から「お互いに助け合い、力を合わせて作業をし、地域生活を営んでいこう」という願いが込められています。当初は民家を借りて作業を行っていましたが、平成25年に県の基盤整備事業で新たな作業場が整備され、地域の人に助けってもらいながら活動を続けてきました。

しかしコロナ禍で、イベントの中止などにより売り上げが減ってしまいました。利用者の時給を下げざるを得ず、今でも元の水準には戻っていないそうです。そんな中でも昨年7月、周囲の要望から生活介護事業所「つなぐ」を開設しました。

「この最大の売りは職員です」と理事長の稲田さんは話します。スタッフと利用者の間にはしっかりと信頼関係が築かれていますので、利用者が安心して活動を行っています。「今後はグループホーム建設も視野に入れ、みんなが活き活きと笑顔で暮らせる地域にしたい」と願います。